

第 11 回休眠預金等活用審議会ワーキンググループの議論の概要

- 今年は 5 年目で仕上げの年に該当する。2022 年度基本計画の履行により、着実に成果を出し、評価を行い、制度を次のステージに持って行くことが重要ではないか。
- 2019 年度事業の中間評価を実施したとのことだが、評価の際は、うまくいかなかった点について振り返るとともに、うまくいっている事例については、その理由についてレビュー会で採り上げ、制度のアップールにつなげていくという視点が重要ではないか。
- JANPIA の業務改善プロジェクトでは、こういう声は出たけれどもここは変えなかったというものについても、その理由を書いて公表すべきではないか。
- 業務改善プロジェクトは、できる限り外にも伝える必要がある。ビフォーアフターを分かりやすく見える化し、今まで使いづらいついていた人を振り向かせることが重要ではないか。
- 休眠預金の存在を知らないまま、大きな課題を抱えている団体もあるため、そこにうまくアウトリーチし、休眠預金事業の申請を行うまでの伴走のようなものがあればよい。
- 現状では同一事業を申請することができない中で、新たな資金分配団体がどれくらい出てきているのかを注視する必要。まだ拾い切れていない実行団体があるため、新たな資金分配団体の出現が順調でなければ、5 年後見直しの中で既存事業の継続という選択肢も検討する必要があるのではないか。

以上